

第2 教育研究団体の意見・評価

○ 日本国語教育学会

(代表者 田近 洵一 会員数 約3,100名)

TEL 03-6801-5951

1 前 文

(1) 現代文分野

評論文は、平易で標準的。選択肢の量は前年より増えたが本文が平易なためバランスが良く、短い時間で解けたのでは。評論用語・抽象度の高い言葉があまり出なかった。その分読みやすい文章であったとも言えるが、生徒の語彙力を測ることができるのか疑問は残る。学校で習ったことをそのまま活かすことの出来る問題であった。大学入試問題としてはこれ以上レベルを落とせないだろう。小説は高校生の日常生活の実感と乖離しているため、解いていても場面を想像しにくい。「私」の人物設定も高校生からすれば内面を読み辛い。逆に読み手の想像力を掻き立てるとも言える。敢えて共感しにくい題材を選ぶことによって生徒にどのような力をつけさせたいのかを明確にする必要がある。また、「是政」という場所の設定は、都内の生徒に有利だったのでは。全国規模の問題としてはやや問題がある。

(2) 古典分野

古文は、普段勉強している教科書ではこのような平易な文章を読んでストーリーを追うというのではないが、3年間で勉強し終えた後なら良いと思われる。短歌も入っていた。漢文は、ストレートなだけでない工夫がある内容で良かった。若干ルビをふり過ぎている感はあるが、問いを考える上で余計な難しさを排除してくれている。

2 試験問題の程度・設問数・配点・形式等

第1問 内容、分量、注といった点から見て適当。「国語総合」レベルとしてふさわしい。

問1 まず、漢字は書かせることで定着を図りたい。その上で内容を見ると、音と訓のバランスが4対1である。強いて言えばもう少し均衡が取れた方が良い。

問2 必要な問い。正答の「何とか」は不十分。より言葉を明確にするべき。

問3 誤答選択肢の傷が明確であるため解きやすい。「翻訳を回避する」とはどういうことなのか、深く問いかけた方が良い。傍線部を説明させる力をつけさせたい。「近似的」の意味を考えさせるような設問が望ましい。

問4 近似的な言い換えに対して原文の構造に忠実な翻訳の方が「正しい」かもしれないが、一般的には近似的な言い換えの方が受け入れられる。この文脈からすると、傍線部から筆者の考えを推測させるのは不適切では。「言語哲学の問題」を聞くのは、読み解ける範囲を確定させるのが難しいだろうが、それにしても選択肢の解釈が若干弱い。「哲学」の言い換えをしているものさえ選べば本文を読まずとも解けてしまう。

問5 工夫されているが、真の意味での対話ではない。誤答を作るためにはどうしても「間違ったことを述べている生徒の発言に触れない生徒」が出てくる。そのため推理ゲームのような側面が出る。話し合い経験の多い生徒ほど混乱する。選択肢中「差」という言葉は文化の上下が発生してしまうため、倫理的に問題がある。「違い」にするべき。

問6 (i) 表現については「適当でないもの」という聞き方で問うた方が良い。本文の二箇所

だけ見れば解けるように変わったのは良い。ただ④が正解だと考えるには、該当箇所
の4行全てを読まないで解けないので、難しかった。

(ii) 論理構成は授業でも扱っている。空白があるので構成を考えやすい。「構成」を問
う以上、「はじめに…次に…最後に…」形式で、全体の流れを問う方が良い。

第2問 高校生の日常生活の実感と乖離しているため、解いていても場面を想像しにくい。

問1 基本的には問題ない。

問2 妥当な解答。「気持ちや向き合い方」という二つの観点から問うたのは新鮮。

問3 問うのに良い箇所。「それはなんだかよろこばしい」の「なんだか」を正答で具体的に
説明しきれていない。「なぜか」ではなく「なにに」と聞く設問になっている。2番が紛ら
わしい。本文の「それを見ると」以降が反映された解答にした方が良い。

問4 ②と④で迷う。「申し訳なさ」「罪悪感」が誤答だが、明確に間違いとは出来ない。「前後
の私の心情」という広い範囲を問うているが、設問の傍線部を短く引きすぎではないか。

問5 「ここに至るまでの」という聞き方が良い。文章全体を読ませる良い問題。

問6 ①、②に違和感。「～によって」という聞き方になってしまうと、本文の解釈も含まれ
てしまう。追・再試験は「～は～を表している」という聞き方だったが、この方が表現その
ものを問うことになる。「体言止め」は古文常識では余情を表す効果があると教えているの
で、知識がかえって邪魔になる。

第3問 長い読みやすく複雑でもないので国語総合としては適当。会話主が明確である。

問1 (ア)は文脈判断。知識偏重でなく良い。文法的要素も入っている。(イ)も文法的知識を含ん
でいた。(ウ)「この人の」が聞かれる意味が薄いのでは。

問2 妥当な問題。bだけ紛らわしいが前後の文脈から判断できる。

問3 かなり易しいが、基本単語と前後の流れで判断できる。バランスは良い。

問4 リード文も含めた古典常識の工夫がある。全体を見渡さないといけない点でも面白い問題。

問5 全体が読めていれば迷いはない良問。こう読んで欲しいというメッセージみたいなもの
が感じられる。

問6 まぎれはなく、歌の最も大事な部分をきいていて良い。選択肢の質に若干ばらつきがあ
るが、全体把握した上でのまとめでもあり妥当。

第4問 注も読み解く力が問われ、問いも簡潔、全体のバランスも良い。

問1 (ア)は知識のみ。単純ではあるが、(イ)は前後をしっかりと読まないと正答できない。文脈の
中で考える力が問われており、全体的によくバランスは取れている。

問2 うまい問い方である。「かくのごとき」がしっかりと読めていれば、きちんと答えられ
る。疑問・反語に関わることをきくのは漢文の肝になる。この文章の趣旨に関わることをう
まくきいている。

問3 問い方が親切。上手く問いで誘導してある。

問4 漢文の基本的な構造がわかっていて、後の文とのつながりが分かればできる。常識を働
かせることも含め、うまいきき方。

問5 他の問いと比べると若干単純だが、傍線部の表現は「存」と「卒」の対比があり、正答
選択肢の表現も工夫されている。生死に関わる内容として一番重要。

問6 これまでの内容、直前の部分が終わってれば迷わず解ける。傍線を引いている箇所も
良い。指示語としての内容把握も求められている。

問7 個人的な「恩」ではなく、叔母の「徳」がきちんととらえられているのが大切。一番聞
くべきところをきいた必要な問である。